

川北町の高齢者の保健事業と介護予防等一体的実施事業

令和5年度開始

【概況】（R5.4.1現在） 人口6,105人 高齢化率23.4% 被保険者数782人 日常生活圏域1圏域 健診受診率(R4年度)後期20.0% 平均寿命男81.2歳女87.6歳 【推進体制】 住民課：健診、データヘルス計画主管課 福祉課：企画・調整 疾病予防、重症化予防、通いの場支援、一般介護予防 介護保険事業計画、高齢者福祉計画 ※連絡会の開催2か月に1回（年6回） ※広域との協議の場等：R5.6.6意見交換会.R5.10.30推進会議兼研修会等	
【後期高齢者を取り巻く現状と健康課題など】 医療⇒後期高齢者の医療費割合は、がん、脳梗塞が県より高い。・外来、入院ともに循環器系・筋骨格系等疾患が多い。 介護⇒要介護認定率は18.0%と県より低いが、2号認定率が0.4%で県より高い。 介護認定新規申請の原因疾患は、認知症と筋骨格系疾患が多い。 保健⇒後期高齢者健診受診率が20.0%と県より低く、令和3年度より低下している。健康状態不明者やや増加	
【企画調整や関係団体との連携】 企画調整専門職：専従(福祉課・保健師) ①庁内等連携 住民課・福祉課等の高齢者の健康に関係する課等と課題などの共有や情報交換、事業の進捗管理等を行う。 ②関係団体との連携 医師会、歯科医師会、薬剤師会等 ③第三者による支援・評価について 国保連合会保健事業支援・評価委員会 ③庁内外関係者の連絡会 広域連合との連携・協議の場	【ハイリスクアプローチ】 ①健康状態不明者の把握 健診・医療・介護未利用者を抽出。 評価指標：健診受診数、実態把握数、医療・介護サービスにつながった数 ②糖尿病性腎症重症化予防（保健師・管理栄養士） 75歳以上の被保険者で、以下の該当者 ①健診受診者で空腹時血糖126mg/dℓ以上又はHbA1c7.0%以上で糖尿病医療機関未受診者 ②糖尿病の治療者で、国保からの継続指導者 ・長期的評価：糖尿病性腎症新規透析者数の維持（減少）、 糖尿病に係る医療費の伸びの抑制、要介護認定率の低下等 ・短期的評価：HbA1c・体重・生活習慣等の改善人数（増加・減少・変化なし＝維持）及び割合、日常生活満足度等
	【ポピュレーションアプローチ】 ①通いの場での健康保持増進・健康教育・健康相談 通いの場等で地区担当保健師が生活習慣病の重症化予防や口腔機能低下などのフレイル予防に係る健康教育や健康相談等を実施。 【事業評価及び評価項目】 長期的評価：運動・栄養・口腔等のフレイルリスクの改善率、要介護認定率、医療費及び介護費の増減等 短期的評価：介入前後の運動・栄養・口腔等のフレイル関連項目の改善状況、通いの場における健康相談・教育の実施回数や参加状況、介入支援者における必要なサービス(健診・医療・介護等)に繋がった割合等

川北町高齢者の保健事業と介護予防等一体的実施事業

5年度実績

取組区分		評価指標	結果
ハイリスクアプローチ	健康状態不明者	①健診受診した者の人数 ②医療・介護サービスにつながった者 ③要介護認定の状況 等	お達者ですか訪問事業より過去 1 年間に健診、医療・介護保険をつかっていない者を把握 既存の情報…がん検診、高齢者インフルエンザ予防接種履歴、国保での健診、医療の受診 状況により対象者を確認。 結果、対象者は 1 名。 訪問により、状況確認。元気に過ごしていることは確認できたので、健診について説明 し、受診干渉を行った。 ①②ともに 0 名
	糖尿病性腎症重症化予防	①受診につながった者 ②HbA1cの変化 ③血圧の変化 等	対象者の抽出までで、訪問や面接ができなかった。 令和 6 年度継続して取り組んでいく。
ポピュレーションアプローチ	健康相談・教育	①参加者率 ②ハイリスクアプローチに繋いだ人数 等	① 9 つの通いの場、健康相談、教育を実施。 健康教育：介護予防について 健康相談：1 か所のみ実施 ②必要な人はおらず、0 名
課題・改善方法			
健康状態不明者：対象者となる人数が少ない。対象者の選定等検討をしていく。例：健診等未受診者へは訪問するなど			
糖尿病性腎症重症化予防：継続的な取り組みができず、医療従事者の確保もできなかった。令和 6 年度は当初より取り組んでいく。			
健康相談・教育：参加している人の中にはハイリスクの人はいなかったが、今後継続的に実施することで、通いの場へ参加しなくなる人などの把握を行い、早期の介入を行っていく。			

■事業推進のための取組：住民への周知活動、広報等での工夫・人材育成の為の取組等

■事業全体の成果、今後の展開：現段階での評価、今後の課題及び改善策・今後の展開など取組への意欲など】

○ハイリスクアプローチについて

・突然の障害発生や介護認定など健康状態不明者は複数の健康課題と支援ニーズをもつ住民との出会う最高の事業であるが、件数が少なく解決につながる事例がない。この事業の意義等を関係機関や被保険者に届くための総意工夫はじめ、個々人の個人情報管理の在り方等との慎重な丁寧な対応が求められる。時間は係るが一事例を丁寧に対応していくことで地域全体で見守る体制や必要なサービスへ繋ぐための体制構築等に繋がっていると感じる。

○ポピュレーションアプローチについて

・通いの場に通う方は、健康意識が高く、生活習慣病治療中の方の診療情報を把握して、通いの場に来る健康維持に関心の高い層からの健康寿命延伸を確実にしていきたい。

※今後の事業推進には取組むための関係者の理解と協力が得られるたの確固たる体制構築が必須であり、そのためにも広域連合と市町の関係部署の上層部との合意形成や協議の場は必須であると感じており、広域からの積極的かつ継続的な事業推進体制維持・構築への支援を強く求める。